

浄土宗
撰取山
念佛寺
報

撰取

第 22 号

言葉

どくるしきょう
特留此経

しじゅうひゃくさい
止住百歳

暖冬ながら

寒いお彼岸

暖冬暖冬といわれながらもいつまでも寒い日が続いております。サクラの開花予想も早まったかと思ったら、この寒さでまた後へ修正も必要なのではないでしょうか。



アズマイチゲ (東一華) 2003 年 3 月 9 日
撮影 英田町で撮影 イチリンソウ属の花で花弁のように見えるのは萼片で花弁ではない

(無量寿経下巻)

仏の教えだけが残って、それを実践するものもなく悟りを得るものがないくなる末法の世の中が訪れても、ひとり念仏の教えのみは、仏の慈悲をもって哀愍して、なお百年の間、この世に留まって人々を救うというところで。法然上人はこれを「特留念仏」といい、「この経の止住は念仏の止住なり」といっています。

Q & A

Q 六道と葬儀のときの六道牌は？

A 「六道」とは、衆生がそれぞれに行いによって赴く六種の世界のことです。地獄・餓鬼・畜生の三悪道(三悪趣・さんす)と阿修羅・人間・天上の三善道(三善趣)の六つです。そこで衆生を導くために六地藏などが祭られ、お棺の中に六道銭(六文銭)を冥土の六道の巷や三途の川の船賃として入れるのです。六道牌に「興



片栗 (カタクリ) 神代で撮影
下から見ると模様が見えました。

大悲(大悲を興し)「啓衆生(衆生を啓れみ)」「演慈弁(慈弁を演べて)・慈悲の心を持つて教えを説き)」「授法眼(法眼: 真理を把握する智慧の眼: を授け)」「杜三趣(三趣: 地獄・餓鬼・畜生: を杜ぎ)」「開善門(善門: 三悪道のない世界: を開く。阿弥陀仏の極楽浄土には、「三悪趣無し、三悪道の名もなし(阿弥陀経)」「と記されています。

編集後記

今回は、わざわざ英田にセツブソウ見に行った時に一緒に写したアズマイチゲと、きれいな模様を見ることができたカタクリの写真を載せました。年度始めは、それぞれに新たなスタートを迎える方も多いでしょうが、新たな発見もできる時でもあります。